

# 令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立揖屋小学校)

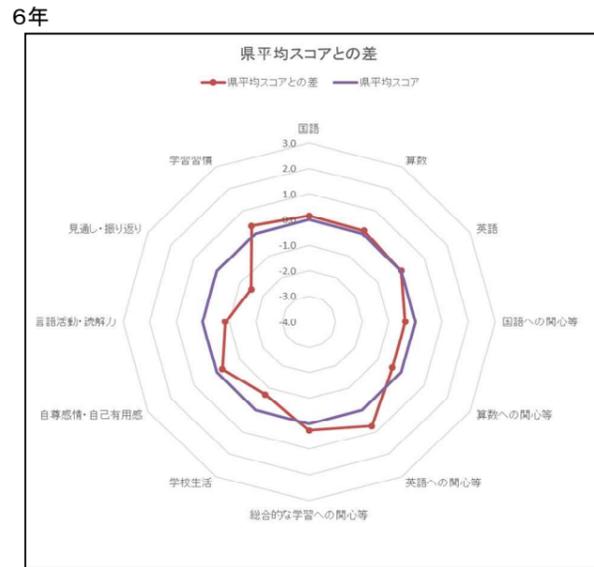
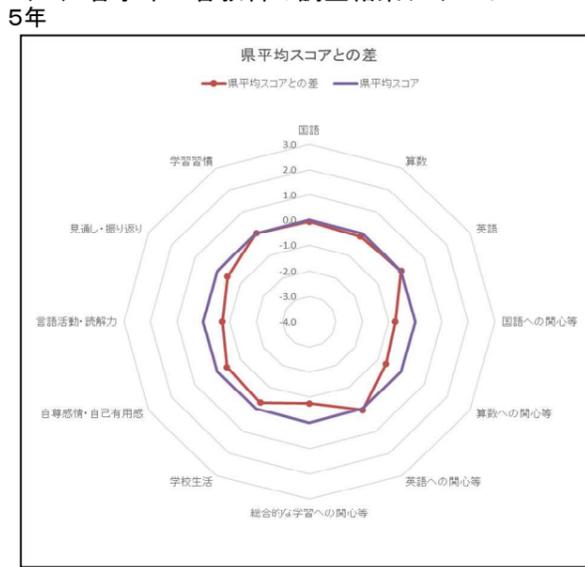
## (1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○漢字大会などを通して言語に対する知識が定着してきている。 ●主語・述語の関係についての理解が弱い。 ●話すこと、書くことへの抵抗感が強い。	・テーマを決めて、条件をつけて日記等を書く経験を増やす。 ・意見を述べようとする時に、理由をはっきりすることを意識させる。 ・文章を書くときに、主語・述語の関係に気を付けながら書くことができるように指導していく。 ・スピーチの活動を通じて、感想を言ったり、話の内容に関わって自分の経験を話すなどの工夫を入れながら、話す経験を増やしていく。
	算数	○具体物を用いたり操作させたりする活動を通して、図形に対する知識が定着してきた。 ○「めあて」「ふりかえり」を意識して学習に取り組み、子どもたちの分かるという意識につながっていった。 ●計算 異分母分数、公倍数、公約数などで苦手意識が高い	・いろいろな見方ができるように、既習の学習内容との結びつけて、学習を進めていけるように展開を工夫していく。(関連する事項をふりかえりの中に入れていく) ・ふりかえりの中で、できたこと、分かったことをしっかり意識させ、充実感をもって学習に取り組めるようにする。
6年	国語	○漢字を正しく読む、ローマ字を書く、段落相互の関係を考えながら読むなどという点が定着してきた。 ○読解力が高まってきている。 ●修飾・被修飾の関係にある語を選ぶ力が弱い。	・国語辞典を活用し言葉の意味や活用の仕方の定着を図る。 ・読解力をさらに高めるために、段落相互の関係を読みとる力をつけていく。そのために、物語文では場面分けと各場面に描かれている内容を読み取り、中心人物の変容を読み取る。説明文では、序論・本論・結論のつながりを読み取り、筆者の考えや主張を読み取る。 ・主語・述語・修飾・被修飾の関係にある語について指導する時間を設ける。
	算数	○速さの意味を理解して道のりを求めること、単位量あたりの考えを用いて作業の速さを求めること、小数の乗法を理解して問題を解くこと、円グラフを読み取り、基準量と割合から比較量を求めることなどができる。 ●分配法則を活用して計算すること、縮尺と縮図上の長さから実際の長さを求めることが難しい。	・計算のきまりを使って計算することを復習し習慣化する。(円の面積を求める問題なども活用して) ・基本的な計算問題はもちろん、思考力や表現力を高めていく問題にも取り組む。

## (3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○国語・算数の学習はよく分かるという意識でいて、がんばろうという気持ちが表れている。 ●国語・算数の学習が嫌いという意識が強い。 ●図書館を活用しての学習をあまり得意としていない。 ●授業開始などの学習規律への意識が低い。	・子どもたちの興味関心が高まるように学習を工夫していく。 ・定期的に図書館活用の機会を設け、情報を収集、精査し、発表する学習を行っていく。 ・学習の始まり、終わりを意識し、学習に向かう構えをつくっていく。
	家庭学習に関わる事項	○自学ノートの良かったところを紹介することで、意識して自学に取り組むことができるようになってきた ●家庭でのゲーム時間が長い。 ●読書が好きだという意識の児童が少ない。	・自学ノートなど、良いところを紹介する活動を引き続き行い、家庭学習の充実に取り組む。 ・学年だよりなどを通して、メディア時間等のあり方について話し合っていく。 ・学校での朝読書の活動を充実していき、内容理解につながる読みを深めていくために家庭での読書を進めていけるようにする。
6年	授業改善に関わる事項	○教材の工夫、教材との合わせ方の工夫をし、子どもたちが、「どうして? 変だぞ? おかしいな?」などという思いを抱き、教材の中に関心を見出し、考えたい授業、解決したい授業を目指したことにより、主体的に学ぶ児童、学ぶことを楽しむ児童が増えた。 ●学力定着のために、個に応じた具体的な手立て(指導法)が必要である。	・子どもが見出した問いから授業が動き出し、子どもたちの声で展開していく授業づくりに努める(主体的・対話的に学ぶために)。 ・問い返しや、挿さぶり発問、多様な考えを引き出す発問などを行い、深く考えさせる授業づくりに努める(深い学びのために)。 ・知識、技能を定着させる授業と、思考力・表現力を高める授業を明確にする。
	家庭学習に関わる事項	○自学の仕方について、継続して指導を行ってきた結果、学び方を習得していく児童、学びの量が増えた児童、そして、学びの質が高まった児童が増えてきた。 ○学習したことを復習する習慣が定着してきた。 ●家庭学習にかかる時間に個人差が大きい。	・継続して、宿題も出しつつ、自主学習主体の家庭学習を行い、学びに向かう意欲を向上させ、学びをプランニングする力を育てていき、主体的に家庭学習に取り組めるようにする。 ・すべての児童が、学び方を身につけるために、自主学習と宿題を含め、量をこなす(1時間以上)取り組みを行っていく。そして、量から学びの質を高めていく指導へと転換していく。

## (2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	58	55
	松江市	61	60
	島根県	60	58

受検者数  
5年生 51人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	54	61
	松江市	52	60
	島根県	51	59

受検者数  
6年生 54人

## (4) 生活・学習に関する意識調査の結果

